

銀杏

発行所

〒792-0835

新居浜市山根町8番1号

曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行人 村上 徳 存

電話(0897)41-6563

FAX(0897)40-3127

毎月1日発行

(振替 01330-2-31918)

瑞 應 寺

印刷所 東田印刷株式会社

通元老師を偲んで〔四〕

大本山永平寺副監院
栃木県明林寺住職

西 田 正 法

前回の連載第三回は、病室全員で朝のお勤めをすることが決まり、通元老師の言い付けで『在家勤行聖典』を三十冊病院に持ち込んだところまでお話致しました。

翌朝、暁天坐禅の後、互いのカーテンを全て開け放ち、全員で朝のお勤めを致しました。全員で致しますから遠慮は要りません。私が大きな声で「摩訶般若波羅蜜多心経オットー」と挙経すると、全員で「カン・ジー・ザイ・ボー・サツギョウジン…」と唱えるのです。皆で大きな声で唱えましたから、声は壁を越え隣の部屋まで伝わって仕舞いま

した。お隣の病室には、大洲市内で食堂を営む一家のお爺さんが入院しておられたのですが、院内の噂では末期の脊椎癌で、いつ個室に移されても不思議の無い、余命幾ばくも無い方だとのことでした。そのお爺さんの看病をしておられたのは、ご長男のお嫁さんで、とても体の大きな方でした。目の下には隈が出来、目はいつも真っ赤で、その後ろ姿の首を項垂れた様子には、溜りに溜まった疲労が色濃く表れていました。そのお嫁さんが私たちの病室のドアをノックして入って来られ、老師の枕元で「和尚さん、朝、お経、唱えてますよねえ？」

とお尋ねです。流石に、今回は苦情だろうと、緊張しました。「和尚さん、二週間程口をきいてくれなかった義父が、私をこうして手招きをして、弱弱しい声で言うんです。『ワシの為にあなたが明日から隣の部屋に行つて一緒にお経を唱えてくれんか？頼む』って手を合わせるんです」と仰り「明日から一緒に出来ませんか？」お尋ねになると、通元老師は「あつ、そりゃえーこととです。一緒にやつたらえー」と、翌朝からの朝課へのご参加を了承されました。翌朝、一緒にお勤めをしたお嫁さんは、心なしか僅かに明るくなられたように感じました。お昼を少し過ぎた頃だったでしょうが、そのお嫁さんがやって来て、「今朝は、有り難う御座いました。義父のところに戻りましたら、義父が手を合わせて『あなたの声が聞こえた』と、あなたの声が聞こえた』と涙を流しながら言つてくれ、そして、『あなた、儂が何も話さなくなつて仕舞つて辛かったらう？儂も、辛かった。今回の入院での病院や先生の

対応を見ていけば、素人の儂でももう打つ手が無いくらいのは事は分かる。もう助からのじゃな、と覚悟をした。だから、倅や女房やあなたに『儂が死んだら』と、大事なことを言い遺そうとすると、『そんな話は聞きたくない』『弱気にならないで』『必ず良くなりますから元氣出して下さい』と、心にも無いことを言い、聞く耳を持つてくれん。自分の体は自分がよく分かる、今度はもう駄目じゃ。一番言いたいことを聞いてくれんのなら、もう何も言わん、まあ、大人気なくも腹を立てたと言うか、臍を曲げたとどううか、傍に居てくれたあなたには申し訳なかつた。しかし、昨日の早朝、隣の病室から読経の声が聞こえた時、儂は『これじゃ』と思い、あなたに明日の朝、儂のために隣に行つて読経して欲しいと頼んだ、〈死に逝く儂の為に読経してくれ〉との思いで頼んだ。あなたは〈はい〉と言つてお経を唱えてくれた。もう儂の為に嘘は言わんでえー、あなたと儂の間にもう嘘はなしじゃ。』と、義父が優しい眼

差して言つてくれました。」傍らでそのお話を聞いていた私は、その方がいつも疲労を溜め込んだような後ろ姿で歩いている訳を知りました。すると、お嫁さんが続けます。「和尚さん、私は長いこと義父の看病をしていて、このところ心底疲れ切っていました。でも、今朝、和尚さん達と一緒にお経を読んで部屋に帰る時、久し振りに何か明るい気持ちになれたんです。そして、部屋に帰つたら義父が優しい言葉を掛けてくれて、そして、これまでの重荷が一気に下りたようで、体も心も軽くなつたんです。和尚さん、和尚さん達はご存じないでしょうね？夜中の病院のロビーには沢山の人が集まつて来るんです。夜の帳が下りて、九時の消灯時間になるとそのまま闇の中に引きずり込まれて仕舞いそうで、死が怖くて眠れないと言う患者さん。疲れているのに病人の傍では気が昂ぶつて眠れず、冷静さを取り戻したくてロビーにやつてくる人。そんな方々が大概

居るんです。私もその中の一人でした。その私が、今朝一緒に読経させて頂いたら、とても心が軽くなったんです。そこで和尚さんお願いです。朝が来るまでロビーで過ごしている仲間に、(この部屋で一緒にお経を読むと心が楽になるよ)と、教えて上げたいのですが、駄目ですか？紹介させて貰っていいですか？」との申し出でした。老師は、「あー、えーですよ。どうぞ、どうぞ、連れてらっしゃい」と、私には決してお見せにならない慈しみ溢れるそれは優しい笑顔で応じられたのです。

このことがあつてから、徐々に朝のお勤めに参加される方が増え、一番多い時には私達の六人部屋に、二十六人の方が押し寄せるようになりました。病院側も、患者さんや、患者さんの看護をする方々の心のケアとなると受け取られたのでしよう。一切注意を受ける事も無く、看護師さんによつては廊下ですれ違う際「お世話になりますねえー」と、お声掛け下さるのです。その頃には、最初でこそ僧侶に付随するお葬式の印象に

因つて忌み嫌われていた私でしたが、廊下を歩いていると「老師さん、とっても厳しいんですってね。負けないで頑張つてね!」「病院で修行してるって本当?頑張りなさい!」と、色々な方が声を掛けて下さり、私が給湯室に行く「ねー、和尚さん聞いてもいい?」とか「和尚さん、話聞いてくれる?」と、様々な人が待っているのです。修行僧の私では答え兼ねる内容は、通元老師の元にご案内して相談に乗って頂きました。老師は、時に慈悲深く、時に厳しく窘めるように、それは親身な身の上相談に乗つておられました。このことも病院内で評判となり、さながら私達の二〇六号室は「仏教カウンセリングコーナー」が開設されたような状況でした。

今回は、通元老師の修行力とそのお人柄から生まれた奇跡のような事実についてお伝え申し上げます。次回が最終回となります。また、お会いしましょう。 正法台掌

令和四年十月三十一日

大慈通元大和尚 通夜説教より

テレホン法話 (〇八九七) 四一・〇〇三三

禪のたより



◆肌色のクレヨン

皆さんは最近のクレヨンや色鉛筆に「肌色」が無いことをご存知だったでしょうか?小学生の娘がクレヨンで色塗りをしていた時のことです。娘に「ここは肌色で塗ってみたらどうだい?」と私が言うと、「肌色ってどんな色?そんな名前の色はないよ」と言われました。一昔前の「肌色」は、今は「うすだいだい」や「パールオレンジ」という色名に変わっていました。

私が子供のころ、文字通り肌の色としてクレヨンに入っていた肌色という色の表記は「人の肌の色」というのはこういう色なのだ」という固定観念を与える可能性があると、大手文具メーカー各社は二〇〇〇年頃から使わなくなったのだそうです。

国際化が進む中で、日本においても様々な肌の色の人たちが暮らすようになりました。日本で教育を受ける外国の子どもが、肌色と表記されたクレヨンを手にしたとき、「自分の肌と違う」と感じるのは、決して好ましいことではないですね。肌の色に

特定の色を定義付けすることは複雑な誤解を招き、差別的な認識を拡大することにもなりかねません。私たちが気づこうとしなかっただけで、クレヨンの中に「肌色」が当たり前にあった時代に、つらい思いをしていた人がいたにちがいありません。

多様性という言葉が社会で叫ばれるようになった現代において、様々な立場を理解し、認め合い、受け入れ、支え合っていくことはとても大切なことです。人種や国籍、あるいは年齢や育ってきた環境によつて「普通」や「当たり前」の感覚は様々です。これからの未来を生きる子ども達にとつて「肌の色はこの色」と意識付けられないようにする配慮は、多様性を重んじる教育の第一歩といえるかもしれません。

『同事』という禅語がありまします。事を同じくすると書き「相手と同じ立場になつて思いやり、行動する」ことを意味します。肌の色が違う人と出会った時、私たちは瞬間的に「この人は日本人ではない」と判別してしまいがちです。しかし、肌の

色だけで日本人かどうかを決まるわけではありません。肌の色が違うという区別が、区別の枠を超えて排他的になったり、差別的になったりすることがないよう、相手を理解すること、違いを受け入れること、垣根を作らないこと。それが同事です。クレヨンから肌色がなくなつた一方で、肌色ばかりを集めたクレヨンがあるそうです。世界の様々な肌の色がまとめられていて、なかには四十色セットの物もあり、肌色といつてもいろいろあることが分かります。多様性を理解し、お互いを敬い、認め合う心を養つてまいりましょう。

愛媛県法蓮寺 川本 哲志師
令和五年四月十一日〜二十日

◆他は是れ吾にあらず

春爛漫の四月、心がウキウキする季節です。新入学生、新社会人と成られた方もおられることと思います。そして、それ以外の方にとつても四月は年度替わりの月であり、転勤や異動などで、新人気分を味わっている方も多いことであまりましよう。

かく言う私にも、新人と呼ばれる時代がありました。かれこれ四十数年前の三月、私

は大学を卒業して修行道場の門を叩きました。新入社員ならば会社の新入社員研修を受ける頃だと思えます。姿形と日数などの違いはありますが、私共宗侶にとつての新入社員研修が「修行道場への入門」だといえるかもしれません。

会社員生活をしたことがありませんので何とも言えませんが、修行道場の生活では、最初の三か月が最も辛い期間でした。色々なことを教わるのですが、「尊公そんなことも知らないのか?」尊公というのとは君、といった意味です。尊公それで良く、この本山にいられたもんだ」と言われたり、「尊公そんなことも出来ないのか? 尊公の師匠は、いったい何を教えてくれたのだ?」と、手厳しく言われたり、キツく指導されたこともありました。先輩に対して面と向かつて口に出せるはずもなく、「我が師匠の事を知らないアンタに、そこまで酷く師匠のことを言われたくは無いわ」と思いますが、ジツと耐え忍ぶしかありませんでした。

体が覚えて自然にできるようになるまで、ひたすら目の前にことに打ち込む日々。今になれば、理屈や知識ではなく実践することによってはじめて得られるものがあるのだと教わった三か月でありました。上山して三か月が過ぎ、ようやく体も神経も修行生活に慣れて来た頃でした。ある修行僧の先輩が私に「正賢和尚、こんな言葉を聞いたことあるかい?」と語りかけてくれました。「それはな、道元禅師さまが書かれた典座教訓という書物の中にある『他は是れ吾にあらず』という言葉だ。修行は自分が自分でするものだ、他の誰でもなく自分自身が経験して会得しなければ意味がないというお示しだ。お前さんは、つい数か月前まで学生だったよね? 大学生活も試験やら生活費の工面やらと、それなりに大変な事もあっただろうけれど、本山の修行の大変さは比べ物にならないだろ? いろんな事を覚えなければならなし、苦しい事も多いだろ? だけどな、周りの先輩方もみな通ってきた道だ、早く一人前の修行僧になつて欲しいから厳しくしているんだよ。分かるかな? それか『他は是れ吾

にあらず』だ。道元禅師さまが、七百年の時を越えて我々に教えてくださったっているんだよ。この言葉には続きがあつてな『更に何れの時を待たん』とお示しだ。つまり、後でやろうなどと思うな。わずかな時間でも無駄にするなよ。道元禅師さまが優しくも厳しく諭して下さいっているんだよ。」と、教えて下さったのです。修行生活はそれから大変なことばかりでしたが、その先輩の言葉のおかげで一年間の修行生活を無事に終えることが出来ました。

いま、新しい環境の中で様々な壁にぶつかっている方もいるのではないのでしょうか? 与えられた課題が出来るかどうか? 不安にかられている方もいるかもしれません。まずは、やってみましょう。『他は是れ吾にあらず、更に何れの時を待たん』です。

高知県浄真寺 伊藤 正賢師
令和五年四月二十一日〜三十日

◆手を合わせる

どなたが、いつ頃詠まれたのか分かりませんが、
右仏 左衆生と 合わす手の
うちぞゆかしき 南無の一声

という歌があります。

インドでは、右の手をきよらかな手、左の手をけがれている手、として、使い分ける慣わしがあります。

その両方の手を合わせることで、真心を表し、つつしみと、うやまいの心を表わします。

お寺での生活は、合掌に始まり、合掌で終ると言つてもいいのではないかと思います。

朝、目覚めましたら、敷布団の上で、枕の方へ向つて正座し合掌して、朝のお唱えをします。その後、洗面をして、坐禅、朝のお勤め、朝食、朝の掃除、朝礼へと行なわれていくのですが、洗面には洗面の作法、坐禅には坐禅の作法、お経を上げる時には上げる時の作法、食事の時には、食事の作法があり、その作法の中で何度も合掌し、頭を下げます。

そうして一日が終り、布団を敷きましたら、また敷布団の上で、枕の方に向つて正座し合掌して、夜のお唱えをしてから休みます。

合掌し、頭を下げるのは、何かの作法をしている時ばかりではありません。

人と擦れ違う時でも、合掌し、頭を下げます。それが同じ人であつても、そのつど合掌し頭を

下げるのですから、一日に何度合掌し頭を下げているのか数えることが出来ません。

瑞應寺で修行を始めてまだ日が浅いある日、廊下で住職とばつたり出会つてしまいました。私はとつさに合掌し、頭を下げました。

そして、もういいかなと思ひ、おもむろに顔を上げますと、ご住職はまだ私に向つて、合掌をしておられました。

びたりと合わされた両手は、微動だにせず、美しく見えました。

こんな合掌、見たことない。合掌つてこんなにきれいなのか、と驚き、感動してしまいました。

それからの私は、ご住職の立居振舞を注意深く見るようになりました。

ご住職の合掌されるお姿は、いつでも、どこでも、どなたに会われる時でも美しいものでした。

その時のご住職と同じ年になりましたが、まだ私には美しい合掌ができません。

右仏 左衆生と 合わす手の
うちぞゆかしき 南無の一声

講師 越海 暢芳
令和五年五月一日〜十日



■金毘羅香大祭

四月二十九日(土)(旧三月十日)、当山鎮守金毘羅様の春大祭を開催。

コロナ禍では、中止や縮小開催をせざるを得なかったが、本大祭は感染対策を講じ、可能な限り例年通りの形で開催された。社殿にて、転読大般若祈禱を厳修。また、当山梅花講員の詠讃歌奉詠が行われた。法堂前ではバザー、薩摩琵琶演奏、福餅進呈などで賑わい無事円成した。



金毘羅大祭



薩摩琵琶



土地堂念誦

■夏安居入制

五月十四日(日)より、配役行茶、入寺式、楞嚴会啓建等、入制行持が行われ、三ヶ月の夏制中に入った。制中の第一座にあたる首座は赤松義晃士(愛媛県建徳寺徒弟)が務める。

山内大衆乳水和合し、今制中切磋琢磨・辨道精進し、仏道修行の無事円成を誓願した。



楞嚴会啓建

五月の日鑑

- 一日 祝禱
- 七日 日曜参禅会
- 九日 参玄会(十一日迄)
- 十四日 配役行茶・入寺式
- 十五日 土地堂念誦・庫司点湯
- 十五日 祝禱・小参・人事行礼
- 十八日 楞嚴会啓建・衆寮諷經
- 廿一日 略布薩
- 廿一日 観音講・勉強会
- 廿一日 略布薩

六月の予定

- 一日 祝禱
- 四日 日曜参禅会
- 六日 参玄会(八日迄)
- 十日 ベルモニー合同慰霊祭
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿一日 略布薩

銀杏感謝録

- 愛媛県 善福寺 殿
- 鳥取県 安国寺 殿
- 熊本県 明德寺 殿
- 愛媛県 山口泰 殿
- 広島県 東光寺 殿
- 新潟県 楞嚴寺 殿
- 島根県 岩瀧寺 殿
- 愛知県 正法寺 殿
- 長野県 三光寺 殿
- 山口県 妙光寺 殿

(令和五年一月十八日受付迄)



永平寺贈西堂 大慈通元大和尚小祥忌法要

令和五年七月二日(日) 大夜諷經 十九時より
令和五年七月三日(月) 正當諷經 十四時より

ご随喜頂ける御寺院様はお手数ですが、人数把握の為、瑞應寺までご二報頂ければ幸いです。
尚、瑞應寺安居者は安居会事務局等へご一報お願いします。



鐘 声

瑞應寺に安居して約一ヶ月半が経ちました。修行というものに身を投じ、感じたことは多々ありますが、その中でも自己の精神と向き合い、いかにしてそれを清く安らかなものへと昇華していけるかという所に目を向けて励んでいきたいと考えています。数え切れないほどの失態や苦悩を重ねる中にも、着実に成長していける喜びを感じ、その思いを糧として日々移り変わる眼前の事に一心に努め、首座という大任を果たせるよう精進していく所存です。

今夏首座 義晃